

長谷川 望 師

- \* しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなります、またしばらくすると、わたしを見ます。」(ヨハネ16:16) この主イエスのことばが弟子たちには理解できなかつたので、再度言われた。まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜びます。あなたがたは悲しみます。しかし、あなたがたの悲しみは喜びに変わります。(16:20) これは、間もなく(あすの午後)十字架について死に、間もなく(実質1日半)復活することを預言して言われたのである。
- \* イエスが十字架にかかる「世」は喜ぶ。「世」にはイエスに反感を持ったユダヤ人たちが中心で、彼らはかねてからイエスを亡き者にしようとしていたからである。しかし、弟子たちをはじめ、イエスについて来ていた人たちは当然のことながら嘆き、悲しむ。しかし、その悲しみはすぐに喜びに変わる、とイエスは言われる。イエスが三日目によみがえることは、イエスから聞いていたけども、弟子たちは半信半疑であった。しかし、イエスはわたしに再び会うことができ、喜びに満たされると約束される。それは、あたかも、女子を産むときまでの苦しみは大きなものであるが、生まれてきた赤ちゃんを見ると喜びがその苦しみを忘れさせてしまうのと同じだ、と言われる。
- \* 「その喜びをあなたがたから奪い去る者はありません。」(16:22より) その喜びは、朽ちないからだによみがえられたイエスを見るだけでなく、イエスを信じる者はそのイエスと同じようなからだによみがえり、終わりの日に永遠のいのちの完成に与ることができるという喜びである。一時的ではない終わりまで持続する喜びである。
- \* 「今まで、あなたがたは、わたしの名によって何も求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けます。あなたがたの喜びが満ちあふれるようになるためです。」(16:24) 主イエスによって罪が贖われ、永遠のいのちを持つ者にふさわしく歩むためには、「イエス・キリストの名によって」父なる神に祈りなさい、と言われる。「名」とは全人格と御性質を表す。神の御子であり、救い主である方の名によって祈るとき、求めたものは実現する。本当の喜びを得るために祈り続けよう。